

新たな息吹 SINCE2007



20th Anniversary

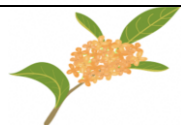
さわの里だより



横浜市立さわの里小学校 学校だより

URL <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/sawanosato>

10月号



3年先の稽古

～目の前の課題と未来を見据えた努力～

校長 末松 隆一郎

街のそこかしこで秋桜の花が優しく風に揺れ、彼岸花の赤鮮やかに、芽蛸(ひぐらし)もかなかなかなと去り行く頃となりました。

秋雨前線と台風の影響により、記録的な長雨・秋時雨・時に災害をもたらす豪雨繰り返す日々が続いていますが、校内では運動会の練習も始まり、子供たちの元気な声が響き始めています。また、第20回アジア競技大会での連日の日本勢の活躍、大相撲秋場所では横綱大の里の1年ぶりの賜杯奪回、終盤を迎えたプロ野球やメジャーリーグなど、「スポーツの秋」真っ盛り。応援にも力が入る日々が続きます。

3年先の稽古

相撲界には「3年先の稽古」という言葉があるそうです。かつて「昭和最後の大横綱」と呼ばれた第58代横綱 千代の富士関が、インタビューで次のようなことを語っていました。

相撲界には「3年先の稽古」という言葉があるんだよ。今日、明日とか1週間ぐらいやったってすぐに力はつかない。毎日毎日稽古することによって、3年くらい経ってようやく稽古の貯金が増えて、本当の相撲の力がでてる。そういう信念をもってがんばれる子はよくなっていく。

今日一生懸命稽古したからといって、明日の相撲ですぐに強くなれるわけではない。しかし、一日一日の稽古の積み重ねが、やがて3年先、5年先の力となって表れる。未来の自分を見据えて努力することの大切さを説いた素敵な言葉だと思います。また同時に、目の前の成果を求める稽古も大切です。明日の勝負のために今できることを考え、技を磨き、課題を一つ一つ克服していくこともまた必要です。つまり、遠い未来を見据えることと、目の前の目標に向かって努力することは、別々のものではなく、深く結びついた、「学び」や「成長」のために必要な姿だと思います。そして、この言葉は、子供たちの「学び」や「成長」にも通じるものがあると思います。

今、学びの環境は大きく変化しています。学校では、タブレット端末を使った学習活動が当たり前の日常となっています。さらにこの先、生成 AI をはじめとする新しい技術は、学校だけでなく、社会の在り方をも大きく変えようとしています。



AI がさまざまな「答え」を示してくれる時代だからこそ、「自分で問いをもつこと」「自分で考え、自分の考えをもつこと」「他の人との対話を通して自分の考えを深めたり再構成すること」が、これまで以上に大切になってくると思います。ICT や AI は、「学び」を広げるための便利な道具であり、道具でしかありません。そこに示された情報をそのまま受け入れるのではなく、確かめ、比べ、自分で判断する姿勢は、これからの「学び」や人として「成長」していく中で、欠かすことのできない大切なものになっていくと思います。

今日の「なぜだろう」「やってみよう」「考えてみよう」「伝えてみよう」という小さな積み重ねが、3年後、5年後、そしてその先の自分をつくります。同時に、今日の目標を明確にし、できたことや課題を振り返り、次の一步に繋げることも大切です。学校では、未来を見据えた学びと、目の前の成果を目指す学びの両方を大切にしながら、子供たちの挑戦する過程、失敗(けいけん 経験)を支えていきたいと思っています。